

未だ検討されていない。今回、我々の施設で数年前より行ってきた PMX 長時間施行のデータを retrospective に解析し、長時間施行が認められる病態やパラメーターについて検討した。

〔対象〕 96 年から 02 年 8 月までに当院 ICU で PMX を施行した 41 例。男性 30 例、女性 11 例。年齢は 21 歳から 86 歳、平均 64.7 歳。

〔結果、考察〕 ①血圧は 2 時間施行中に改善したが、ARDS を合併した症例では PaO₂/FIO₂ (P/Fratio) の改善は 2 時間では認められなかった。②エンドトキシン血症救命治療研究会の多施設臨床研究の 2 時間施行群と比較すると、P/Fratio は 2 時間後には両群とも横ばいで、その後長時間施行群のほうがより高度に改善した。血圧の上昇は、両群とも 2 時間後には同程度改善し、その後、長時間施行群では終了時までに、2 時間施行群より大きく改善した。③炎症残存群では、炎症除去群に比べ、血圧も P/Fratio も改善を認めるのに長時間必要とした。

S-3. エンドトキシン陽性例に対するエンドトキシン吸着療法の有効性

安宅一晃・嶋岡英輝・徳平夏子

大阪市立総合医療センター集中治療部

グラム陰性菌による敗血症性ショックはエンドトキシンの関与が予想され、エンドトキシン吸着療法が施行されている。しかし、血中エンドトキシン値の測定が曖昧で本治療法の適応基準、効果判定は未だに確立されておらず、臨床的な基準で開始しているのが現状である。これらの症例の血中エンドトキシン値は開始前から陰性であることが多く、エンドトキシンが除去されて効果があるのかもどうかも曖昧である。今回、当院でエンドトキシン吸着療法施行前に陽性であった症例について効果を検討した。

〔対象と方法〕 2002 年 11 月までにエンドトキシン吸着療法を行った症例は 116 例であり、施行前の比濁時間法によるエンドトキシン値が測定できた症例は 68 例であった。施行前のエンドトキシン値が 1 pg/mL 以上の陽性例 17 例を対象に循環動態の改善、予後について検討した。

〔結果と考察〕 対象例のうち生存は 10 例であった。血中エンドトキシン値がエンドトキシン吸着療法施行後に陰性化した 10 例は全例循環動態の改善を認め、逆に陰性化しなかった 7 例は循環動態が改善も認められなかった。エンドトキシン値が本治療法の適応基準、

効果判定になりうると考えられる。

S-4. PMX 治療での SLP テスト変動の検討

田畑貴久・清水智治・花澤一芳・遠藤善裕

阿部 元・森 毅・谷 徹

滋賀医科大学医学部外科学講座

〔背景〕 Silkworm Larvae Plasma (SLP) test はグラム陰性菌・グラム陽性菌などの原核細胞の壁成分である peptidoglycan (PG) と、真菌中 1-3- α -Glucan を測定する方法である。これまで我々は、SLP テストの感染症診断の有用性について報告し、重症患者での予後指標として用いることができる可能性について報告した。今回、PMX 治療での SLP テストの変動について検討した。

〔方法〕 PMX 治療を施行した症例について PMX 治療前、直後、24 時間後の血中 SLP 値について検討した。

〔結果〕 血中 SLP 値は、治療経過と共に有意に低下を認めた。死亡群と生存群で検討すると有意差は認めないが、死亡群の方が最終的に高値で推移する傾向にあった。

〔まとめ〕 PMX 治療経過中に SLP テストを測定することにより予後指標として評価できる可能性が示唆された。治療経過にて血中 SLP 値が低下するメカニズムと生体に対する影響については今後検討を行う必要があると考えられた。

〈特別講演〉

G-1 カラムアフェレシス治療併用による

高 HCV 血症患者における

インターフェロン・リバビリン治療増強効果

澤田康史

兵庫医科大学消化器内科

【目的】 高 HCV 血症を伴う C 型慢性肝炎患者にアダラム治療を併用することにより、インターフェロン (IFN) とリバビリンの治療効果を増強するかどうか検討した。

【方法】 本臨床研究前半以内に施行された肝生検で、慢性肝炎であることを組織学的に証明でき、かつ、他の免疫が関与する肝疾患群 (自己免疫性肝炎、原発性胆汁性肝硬変、原発性硬化性胆管炎など) や悪性疾患を除外でき、genotype が主に 1b, (2a, 2b でも良い) の高ウイルス血症 (100 KIU/mL 以上) と